

袋井市春岡遺跡

—区画整理事業に伴う春岡遺跡及び周辺遺跡所在確認調査報告書—

1992

静岡県袋井市教育委員会

例 言

1. 本書は平成3年度国庫補助金、県費補助金を得て、袋井市教育委員会が行った春岡遺跡ほか所在確認調査報告書である。
2. 発掘調査は袋井市教育委員会社会教育課の森井雅彦を調査担当者とし、平成3年11月25日から平成4年2月11日まで実施した。
3. 本書の執筆および編集は森井が行った。
4. 本書作成に際して、遺構、土層柱状図のトースは白澤崇が行った。また、遺構、遺物の写真は、森井が撮影を行った。
5. 発掘調査資料はすべて袋井市教育委員会が保管している。
6. 発掘調査および本書の発刊に係わる事務は袋井市教育委員会社会教育課文化振興係が担当した。

7. 調査体制

発掘調査指導機関 静岡県教育委員会文化課

発掘調査実施機関 袋井市教育委員会

教 育 長 浅 井 通 男

社会教育課長 岩 崎 保

文化振興係長 小 粥 保 夫

主 任 主 査 吉 岡 伸 夫

主 任 主 事 建 部 千 代 子

主任学芸員 永 井 義 博

加 藤 理 文

松 井 一 明

学 芸 員 白 澤 崇

森 井 雅 彦 (調査担当者)

8. 発掘調査および、本書作成にあたって、下記の諸氏と機関より御教示、御協力を賜った。
記して感謝する次第である。

加藤喜久治、野村金城、極楽寺、林光寺、春岡神社

春岡自治会

(敬称略)

9. 発掘調査・整理作業の参加者は次の通りである。

発掘調査

相沢繁元、榊原秋平、杉山兼一、鈴木健蔵、鈴木武、鈴木衛

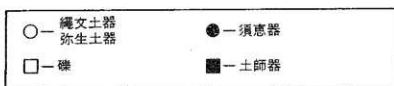
石黒伊玖美、大庭泰子、杉山好枝、寺田しま、寺田矩江、本田八重子

整理作業

内野則子

凡 例

1. 挿図中の「35.5m」といった数値は標高を表す。
2. 土坑については「坑」の字に統一し墓塚とわかるものについては「塚」の字を用いた。
3. 挿図中では「S」は竈、「P」は土器、「C」は炭火物を示す。記号、スクリーン・トーンについては下記の通りである。



目 次

例	言	
凡	例	
目	次	
I	はじめに	2
II	遺構と遺物	4
III	まとめ	11

写真図版

I はじめに

遺跡の位置・環境

袋井市春岡地区における区画整理事業範囲の内には、「静岡県文化財地図Ⅱ」（静岡県教育委員会 1989）によると、春岡遺跡、市場A横穴墓群、春岡横穴墓群、小高遺跡、小高池古墳群、宇刈横穴墓群、奥谷田横穴墓群、奥谷田古墳、本庄山砦、林光寺裏遺跡と10遺跡が記載されている。しかし、現在すでに消滅してしまったと考えるものもあり、また、その所在が明かでも遺跡範囲が不確定なものばかりであった。これらの遺跡は赤石山系に源を発し南流する太田川と原野谷川の支流、宇刈川に挟まれるようにして西に突出する丘陵の西縁部および丘陵西側の水田とに本調査対象地は位置している。標高は23～72mである。

周辺で発掘調査が行われた遺跡としては、丘陵南側に位置する三沢古墳群（弥生～古墳）、その宇刈川対岸の一色前田遺跡（弥生～古墳）、川田古墳群（弥生～平安）、春岡1号墳（弥生～古墳）が位置する。今後、それらの遺跡との関係が大きな問題になってくると思われる。

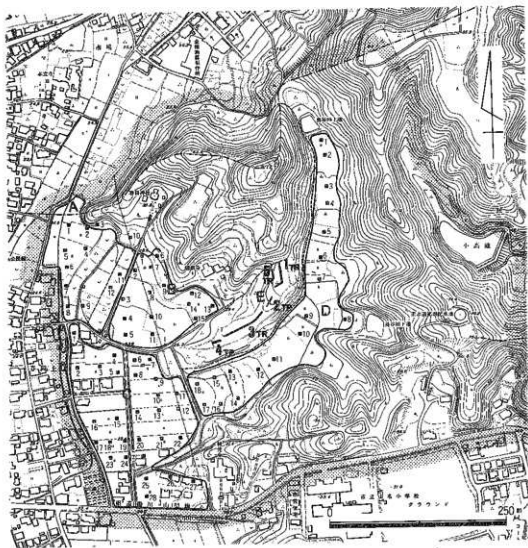


第1図 春岡遺跡ほか位置図・周辺遺跡分布図

調査に至る経過

春岡遺跡は、JR「袋井駅」より北約6kmに位置する。当地域で区画整理計画が地元より持ち上がったのは昭和47年頃で、本格的に昭和52年7月より袋井市と協議を開始し、文化財の取扱いについては平成元年9月に袋井市の担当部局より教育委員会に遺跡分布踏査が依頼された。踏査結果、水田については試掘調査が必要であり、丘陵についても現在地上に現れているものについてのみしか確認できないとの見解にいたり、協議の結果、袋井市教育委員会は、国・県の補助金を得て水田には試掘坑による土層観察、丘陵部分にはトレンチ調査を行い、また、同時に市度分布調査を行い遺跡の範囲は把握することに努めることとした。

試掘坑の土層断面図・トレンチ平面図は20分の1縮尺図を作成した。記録写真はブローニサイズ原画（白黒）と35mmサイズ原画（白黒・カラーリバーサル）を使用した。



第2図 調査区設定図

II 遺構と遺物

1. 調査区概要 (第2図)

調査区は水田部と丘陵部とに分けられ、水田部は地形状A～D区の4地区に分け調査を行った(丘陵部はE区)。水田部の調査はA区北東側より開始し、A～D区までで、73ヶ所の試掘坑を調査した。試掘坑は約3×3mの大きさでバックホーにより排土を行い、そのうち、おもに北側の土層断面を観察した。深さは基盤層である砂利層もしくは、バックホーで掘れる限界まで行った。丘陵部については、通称「地蔵崎」と呼ばれる地区で、5ヶ所のトレンチを設定し遺構確認を行った(第5トレンチは深掘トレンチ)。他の発掘調査の行われない地域については分布踏査を行った。

水田部の土層説明 (第3図)

基本的にA～E層の7層に大別できる。A層は表土層で、褐色を呈する。基本的に耕作土だが、すでに耕作が放棄されているところの表土層や造成が行われているところの盛土層等を指す。A層は褐色粘質土で酸化鉄、マンガン粒を多量に含む。A層とB層の中間的様相を示す。B層は暗灰褐色土で、砂粒を多量に含む。A層に近いB層より下層になると有機質が多量に含まれてくる。B層は暗褐色土で有機質を多量に含む。B層とD層の中間的様相をしめしている。C層は黒色有機質土で、遺物を包含する層(表土に近いC層のみ出土)である。草の遺存体(すくも)を多量に包含している。D層は淡褐色砂質土(シルト層)で、酸化鉄の含有量により色調が様々である。E層は小砂利層で本地域での基盤層であると思われる、太田川によって形成されたものと思われる。A地区からC地区西側で比較的確認することができる。

A区 (第2・3・4図)

春日神社南西に広がる水田と通称「まえのやま」と呼ばれる小丘陵があった地点(昭和30年代に土取りが行われ小丘陵は遺存していないA—9～12)に12ヶ所の試掘坑を設定した。A—5～7のB層の上部から須恵器、下部から弥生土器が、C層から弥生土器が出土した。

B区 (第2・3・4図)

春日神社南側に広がる水田に15ヶ所の試掘坑を設定した。ほぼすべての試掘坑から表土直下のB層から中世カワラケ、灰陶陶器が、表土直下のB層下部からは土師器、須恵器が出土している。また、弥生土器・弥生木製品はC層から出土しており、当地区に遺跡が存在していることが確認できる。

C区 (第2・3・4・5図)

B区の南に広がる水田に27ヶ所の試掘坑を設定した。C—1～5からはB区同様に出土遺物が確認され遺跡がC区北西におよぶことが確認された。他のC—6～27からは遺物は確認さ

れなかった。

D区 (第2・3・5図)

字「奥谷田」に所在する水田と畑、かつて水田として利用されていたところに18ヶ所の試掘坑を設定した。すべての試掘坑からは出土遺跡は確認されていない。また、土層観察の結果、すべてが自然堆積をしており、地層に乱れは確認されないため当地区には遺跡は所在していないと判断される。

E区 (第6・7図)

本地区は通称「地藏崎」とよばれ、現在、区画整理範囲内に所在する極楽寺の入口の小堂に安置されている地藏菩薩像が丘陵先端にあったためにこの名がついたと言われている。5ヶ所のトレンチは丘陵頂上部の平地（現在は茶畑）に設定した。丘陵北からは極楽寺の参道を拡幅を行った時に一石五輪塔が出土している。また、丘陵南には周知の文化財「春岡横穴墓群」が所在している。

第1号トレンチ (第6図)

竈穴住居址と思われる竈穴状遺構、土坑、溝状遺構が確認された。住居址からの出土遺物は無い。土坑からは弥生土器（甕、壺、高坏）が出土した。

第2号トレンチ (第6図)

東西に走る溝状遺構が1条確認されたのみである。

第3号トレンチ (第7図)

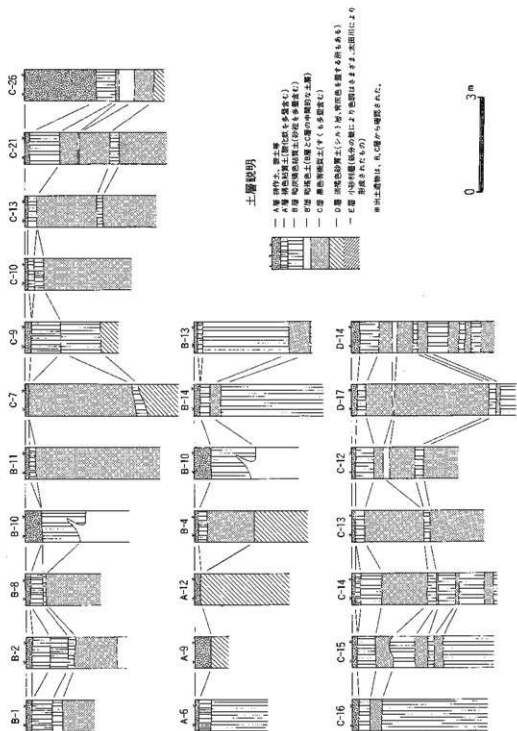
本トレンチ北東から深さ97cm、幅2.4mの堀切状遺構が確認され、本庄山砦が地藏崎にまで及んでいたことが確認された。また、すぐ南西には弥生時代の溝状遺構が確認され、壺がほぼ完全な形で出土した。トレンチ南西からは溝に囲まれていると思われる11・近世土壌群が確認され、中世カワラケ、渡来銭が5枚（寛永元宝、元豊通宝、元祐通宝、紹聖元宝、政和通宝）、覆土中から2枚（淳化元宝、元豊通宝）出土している。

第4号トレンチ (第6図)

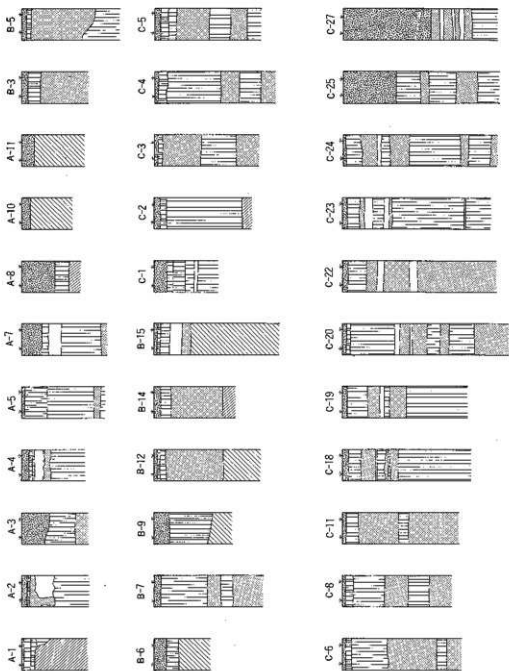
本トレンチの所在する地区は第3号トレンチ南西端と同様に墓域と考えられる。4基の土坑が確認された。東から2番目の土坑から青銅製の小型印籠（4×3×1.6cm）が中に新寛永銭を5枚入った状態で出土した。すぐ南の土坑より角釘と紹聖元宝、古寛永銭が、最南の土坑より新寛永銭が2枚出土した。覆土中からも古寛永銭が出土していることから、墓域と考えられる地区からの出土銭貨は六道銭として墓に副葬されたものと考えられる。また、4基の土坑とも火葬墓であり、第3号トレンチ確認の土壌群よりは時期が若干新しい時期のものと考えられる。

第5号トレンチ (第2図)

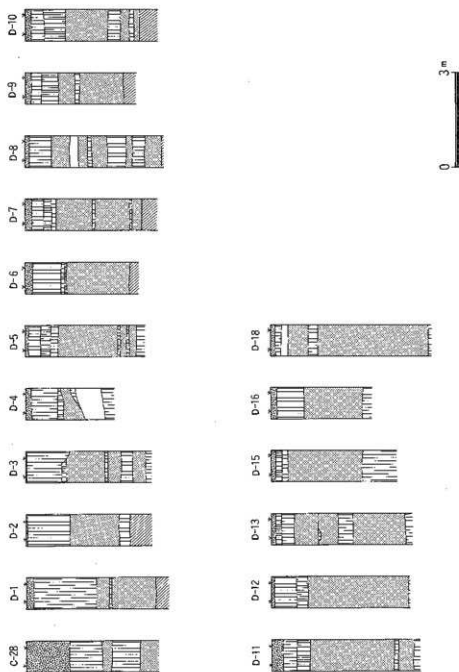
本トレンチは第1号トレンチのすぐ西側に設定した。地表下約10cmで營造成時の整地層と考えられる堆積層となり、厚さは1.7mを測る。整地層下より弥生土器が確認され、他のトレンチの弥生時代遺構や遺物の出土状況から丘陵上にも弥生の遺跡が分布するものと考えられると同時に本庄山砦がかなり大規模な造成を行なった砦であったことが考えられる。



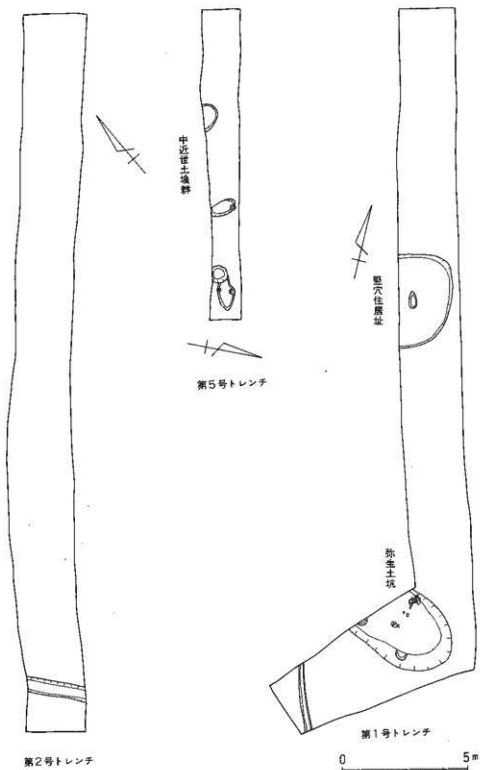
第3図 試験坑断面図(1)



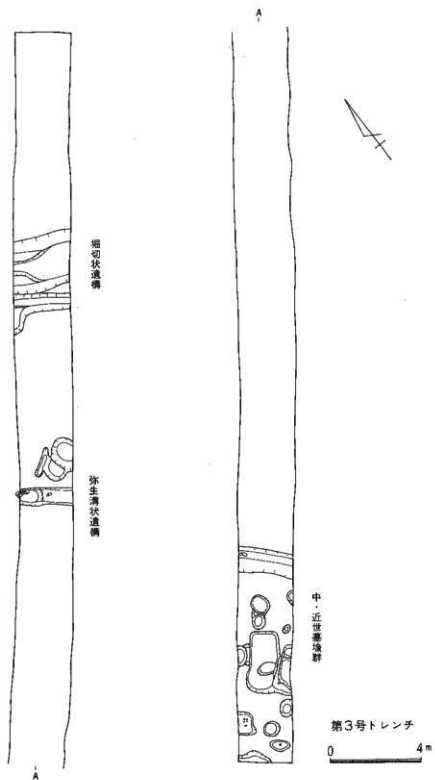
第4圖 試掘坑断面図(2)



第5図 試掘坑断面図(3)



第6図 トレンチ平面図(1)



第7図 トレンチ平面図(1)

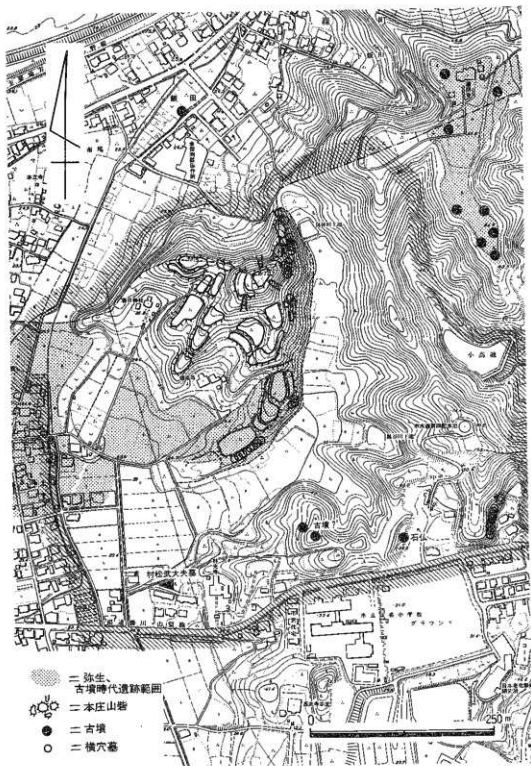
Ⅲ ま と め

今回の所在確認調査では大きな成果を上げることができたと考えられる。調査前までは不確定であった春岡遺跡や、警域が広範囲に広がるものと判明した本庄山砦など数多くの変更事項が出てきたと思われる。それらについて下記に列記しまとめにかえることとした。

1. 春岡遺跡および区画整理内弥生時代遺跡であるが、春岡遺跡については、旧来、C地区を中心に所在すると考えられていたが、調査の結果、A区（「まへのやま」をのぞく）、B区、C区の北側に広がるものと確認された。（第8図）またE区の丘陵上にも遺跡が分布すると考えられる。（春岡遺跡は古墳時代、平安時代、中世の遺物も確認されている。各時代の分布は、古墳時代—B・C区の「まへのやま」周辺域、平安時代—古墳時代同様にA・B・C区の「まへのやま」周辺域、中世—B区の南西に広がると思われる）
2. 古墳時代遺跡については、旧来より確認されていた春岡横穴墓群であるが、現在24基が開口しているために確認できる。それら確認されたものが散在しているため発見されていないものが多く存在する可能性が高いと考えられる。また、市場A横穴墓群は「遠江横穴群」（静岡県教育委員会 1983）の基礎調査においてすでに横穴墓ではなく防空壕であることが確認されている。小高遺跡についても平成元年に試掘調査を実施しており、すでに遺跡が存在しないことが確認されている。奥谷田横穴墓群、奥谷田古墳についてもすでに消滅が確認されている。小高池古墳群についてはすでに消滅した古墳も含め6基以上が確認された。しかし、そのほとんどが区画整理範囲外である。
3. 本庄山砦については、「静岡県の中世城館跡」（静岡県教育委員会 1981）の基礎調査において春日山山頂部分の縄張りにはほぼ判明していたが、砦が南側の「地藏崎」までおよんでいることが判明した。E区第1号トレンチと春日山との間には幅約7mの堀切が確認され、第3号トレンチからも堀切状遺構が、第5号トレンチからは厚い整地層が確認されたため、砦が広範囲におよんでいたと判断される。しかし、春岡神社境内や「まへのやま」にまでおよんでいたかについては、すでに大規模な造成が行われた後であるためにまったく不明であると言えない。

今後の検討課題として、分布踏査を行った区画整理範囲内の東側丘陵および袋井市立山名小学校北側丘陵については樹木伐採後、今一度分布踏査を行うべきだと考えている。今回の調査では見通しがきかないなかで踏査を行ったことは確かである。本調査実施までにはそれら伐採後の分布調査結果をふまえたうえで当地区における埋蔵文化財の所在について検討をしていかなければならないと考えている。また、区画整理事業を推進していくなかで今回の所在確認調査結果を生かした埋蔵文化財の現地保存等取扱いについて担当部局と協議を行って行きたいと考えている。また、調査に参加していただくだけでなく地元との間に入り円滑に調査を進められるようにしていただいた鈴木南氏と春岡自治会の方々には調査の問たいへん御協力いただき、文末ながら記して感謝するしだいである。

※出土遺物については今回は写真図版のみとし、それらの考察等については本報告に譲りたい。



第8圖 遺跡分布圖

区画整理事業予定地に所在する埋蔵文化財等一覧表

遺跡等文化財名	種 別	時 代	出 土 品	面積・数量	備 考
春 岡 遺 跡	集 落 址	弥生～中世	弥生土器・ カワラケ等	18,000㎡	文化財48 文献 1
(丸の内123番 他「地藏崎」)	集落址・ 城址・近世墓	弥生～近世	弥生土器・ カワラケ等	14,000㎡	※ 1
春岡横穴墓群	横 穴 墓	古 墳	須恵器・ 土師器等	24基以上	文化財42 文献 1、2
宇刈横穴墓群	横 穴 墓	古 墳	須恵器・ 土師器等	11基以上	文化財 52 文献 1、2、3
(奥谷田88番地)	古 墳 ?	古 墳		2 基以上	※ 2
本 庄 山 葬	城 址	中 世	カワラケ等	45,000㎡	文化財41 文献 1、4
(天白323番地)	供 養 塔	中 世		200㎡	文献 4、5 ※ 3
(谷田690番地)	石 仏 像	近 世		1 基	※ 4

※ 埋蔵文化財等の面積、数量については区画整理範囲内にかぎる。

※ 面積については概算である。

※ 「文化財48」とは『静岡県文化財地図Ⅱ』の番号である。

※ 1 近世墓については極楽寺に伝わる絵図にその所在が記載されている。

※ 2 古墳状の土の盛り上がりが確認され、埋蔵文化財の所在する可能性が高い。

※ 3 中世武士、村松武大夫（宇刈七騎の一人）の墓と伝えられる。宇天白は伝説跡。

※ 4 旧火葬場跡地に立つ地藏菩薩立像で、「文化4年2月」の記年名が確認できる。

- 文献1 『静岡県文化財地図Ⅱ』（静岡県教育委員会 1989）
 文献2 『遠江の横穴群』（静岡県教育委員会 1983）
 文献3 『字刈の横穴』（袋井市教育委員会 1985）
 文献4 『静岡県の中世城館跡』（静岡県教育委員会 1981）
 文献5 『袋井市史』（袋井市 1985）

参 考 文 献

- 湯之上隆 1985 「袋井周辺の武士の動向」『袋井市史』 袋井市
 1985 「袋井市域の中世城館跡」『袋井市史』 袋井市
 松井一明 1985 『字刈の横穴』 袋井市教育委員会
 吉岡伸夫 1981 「本庄山砦」『静岡県の中世城館跡』 静岡県教育委員会
 1985 「字刈の横穴群」『遠江の横穴群』 静岡県教育委員会
 1985 「群集墳と横穴墓群の構造」『遠江の横穴群』 静岡県教育委員会
 1990 「字刈の横穴群」『静岡県史』 資料編1 考古2 静岡県

写真図版

調査区遠景
(Eより)



A区全景
(NEより)



B区全景
(Eより)





C区全景
(Eより)



D区全景
(Wより)



B-8 遺物出土状態
(Sより)

B-1 土層断面
(Sより)



B-2 土層断面
(Sより)



B-8 土層断面
(Sより)





B-11土層断面
(Sより)



C-9土層断面
(Sより)



C-13土層断面
(Sより)

C-26上層断面
(Sより)



第1号トレンチ全景
(Nより)



第1号トレンチ
土坑遺物出土状態
(Sより)





第3号トレンチ全景
(Nより)



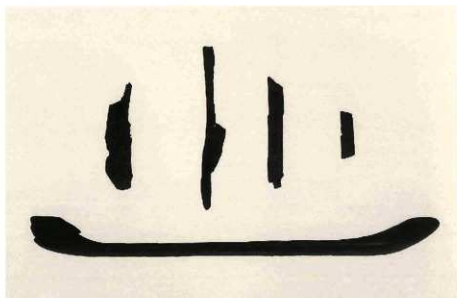
第3号トレンチ
中・近世土壌群
(Nより)



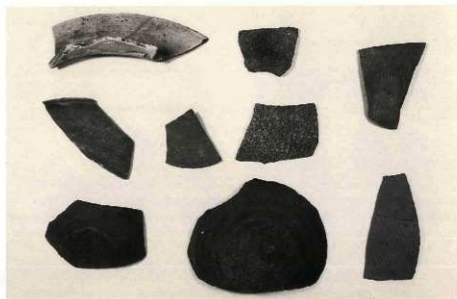
第4号トレンチ全景
(Eより)



B区出土弥生土器



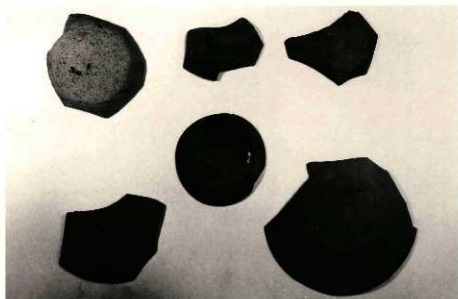
B区出土弥生木製品



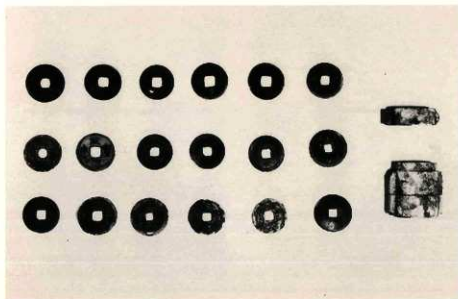
B区出土須惠器・
土師器



B区出土灰釉陶器



B区出土
中世かわらけ



第3・4トレンチ
出土銭貨

袋井市春岡遺跡

区画整理事業に伴う春岡遺跡及び
周辺遺跡所在確認調査書

1992年 3 月 31 日

発 行 静岡県袋井市教育委員会

〒437 静岡県袋井市新屋1-1-1

印 刷 株式会社 開 明 堂

〒430 静岡県浜松市中沢町1-1